

質問 名前・国	日本には七五三や少年式などがあるが、こうした子どもの儀式はあるか？	子どものしつけとして家庭では一般的にどんなことを教える？	社会制度(産休や育休)について	子育てとはいつまでをいう？子どもが経済的に自立するのはいつ？	日本と母国の子育ての違いにとまどっているところなどがあれば
ムラット・ダスキラン (トルコ)	割礼(イスラム教) 98% 洗礼(キリスト教) 2%	挨拶の仕方など、マナーの大切さを教える。 目上:手にキス 同年代:握手、キス	専門職を有する女性は出産しても仕事を続けているが、80%以上の女性は専業主婦となる。 日本は子どものための施設が充実しており、女性にとっても働きやすい環境である。	本人が働き始めるまで(15歳くらいまで)をいう。しかし、我が子はいつになっても我が子なので、生涯教養は必要。「三つ子の魂百まで」と言われるように、生きるための力を小さいうちから育てておく必要がある。	日本の規律は素晴らしいと思う。子育てはいわゆる「3本脚のテーブル」ともいえる。1本は子、1本は親、残る1本は学校であり、それぞれのバランスが大切である。人間も他の動物と同じ。あまり甘やかすすぎないこと。
バー・サイク・エス (シエラレオネ)	特になし。	挨拶の仕方などを教える。 男の子:握手 女の子:膝をついて挨拶 (しかし民族によってさまざま)	80~90%が主婦。(シエラレオネ) 日本の女性が家事と育児を両立させているのは立派だと思う。 男性はもう少し積極的に育児に参加すべき。	子育てというはっきりとした区切りはない。 一生人間関係を大切にする。	公共の場などで、シエラレオネでは目上の人にきちんと席を譲るが、日本ではあまりしていない。 子どもに責任はない。悪いのはしつけをしていない親である。
フィティヤニ・アンワル (インドネシア)	出産後に祝いを行うことが多い。 90%以上がイスラム教で、民族によりさまざまな儀式がある。 1歳まで(土を踏む前)に行くものが多い。	挨拶の仕方(手にキス)、お祈りの仕方、断食(小学校1年くらいから練習)、食事のマナー、テレビの見方など。	インドネシアには産休(3カ月)はあるが、育休はない。その代わりにいつでも休みがとりやすい。 会社に子どもを連れてくるケースも多い。日本は保育施設が充実している。	インドネシアにバイトはない。 大学を卒業するまでは親が負担(大学進学率80%)。	日本の小学校では生活科などもあり科目が豊富。小学生はよく挨拶もし、感じがよいが、日本の大学生はあまり挨拶をしないし、勉強もそれほどしていない様子。
リサ・ヤノ (フィリピン)	キリスト教は洗礼を受ける。 子どものうち(外に出る前に)受けることが多い。	挨拶の仕方(手を持っておでこに当てたり、ハグで挨拶)、話し方、食事のマナー(スプーン、フォークの使い方)など。	産休(3カ月)はある。フィリピンでは出産後24時間以内に退院することがほとんど。お金に余裕があればベビーシッターを雇うこともある。 日本で驚いたことは、生まれて数カ月の赤ちゃんを保育所に預けること。	フィリピンの子どもは自由に育つ。子どもはいつまでの子ども。 コミュニケーション能力を身につけることが大切。	子どもはもっと自由に育ててもいいのでは。
リュビシャ・ラドゥノヴィッチ (モンテネグロ)	小学校は9年間で、中学校はない。 日本のように勉強しない。 イースターが一番大きなイベント。	ヨーロッパの影響あり。 よいマナーの習得、責任感、自分の人生は自分で決められるようサポートする。また芸術、スポーツにも励み、食事にもバランスよくとるよう教える。	医療費は基本無料。 育児休暇は12カ月ある。 出産費用は、総合病院は無料だが、個人病院などの場合は有料。	18歳から選挙権や免許が取得できるので、18歳まで。 誕生日は盛大に行い、年齢分だけ親が子供の耳をひねる風習がある。	日本はとてもよいシステムを持っている。しかし子どもが学校にいる時間が長すぎる、宿題が多すぎる。 モンテネグロの子どもたちはヨーロッパのいろいろな言語を話す。日本ももっと英語教育に力を入れるべき。